

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2016年9月15日

[テーマ] 値上がりに転じたガソリン—緩やかな価格上昇に「期待」—

車の運転は嫌いではない。免許取得以来、10万キロ単位で走ってきた。そんな私でも、東京に住んでいると、自動車を運転するのがおっくうになる。大抵のところには電車やバスで移動が可能。車で出かけると、渋滞はひどいし、行った先の駐車場探しも苦勞する。マンションの駐車場から車を出すことさえ面倒だと思っていると、いつの間にかバッテリーがあがってエンジンがかからなくなっている。

もう5年以上前になるが、車検のため、整備工場に愛車を持ち込んだところ、乗り続けるには大掛かりな部品交換が必要と言われ、車保有をやめる覚悟を決めた。10年余りいろいろなところに出かけて、相当な距離を走った車だったが、最後の1年間の走行距離は数千キロどころか百キロ程度まで減少していた。

再び車を保有することにしたのは、前橋に引っ越し後まもなくの手痛い経験からである。転入手続きのため、職場の近くにある市役所に出向き、その指示に従って保険センター、総合交通センターと回ろうとしたら、バスがない。仕方なくタクシーに乗ったら数千円を費やしてしまった。さすが自動車王国群馬、自動車無しでの生活は大変である。

久しぶりの自家用車は低燃費ではない旧式だったため、週末ごとに県内各地に出かけてドライブを楽しんでいると、月に何回も給油する必要が出てくる。どうせなら少しでも価格が低いタイミングでタンクを満タンにしておきたいと、スタンドの前を通る際には横目で価格表示をチェックする習慣がついた。

最近ガソリン価格が少し上がったなと感じていたら、全国のガソリン平均小売価格が10週ぶりに上昇したという報道を見付けた。群馬のガソリン価格はこれまで大きく下がっていた分、はっきりと上がったようである。値上がり前にガソリンを満タンにしておいて良かったと、ささやかな幸運に感謝したのであるが、今度はいつガソリンを満タンにしておけばよいのだろうか？

ガソリン価格の短期的な動きを決める要因は、ドル建ての原油価格と円の対ドル相場の二つである。

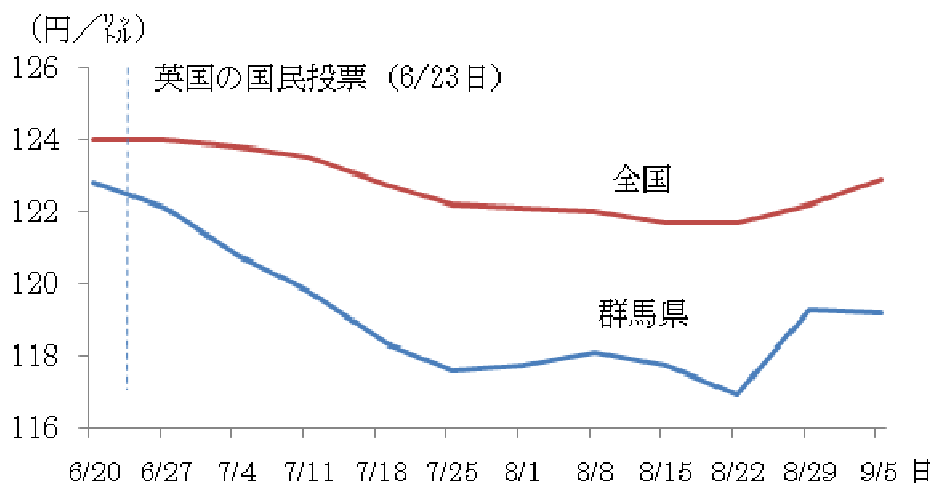
原油価格は年初、中国をはじめ新興国の成長鈍化に対する懸念の高まりや、中東の政治情勢を受けた生産調整の可能性の後退などから、大幅に下落していた。その後、産油国に協調の動きが出てきたこともあって、このところは少し戻す動きとなっている。

円相場も、英国の欧州連合（EU）からの離脱決定の影響への警戒感から円高方向に進み、1ドル100円を割り込みそうになっていたのが、やはりいくぶん戻す動きとなっている。海外情勢が不安定になると円を買うというのは、円を安全通貨と見なしたうえでの、あまりに条件反射的な取引であるが、そうした単純さは金融市場の金融市場たるゆえんである。

いずれにせよ、海外経済の減速やそのもとでの国際金融市場の不安定な動きがいくぶん収まったことが、ガソリンの値上がりをもたらしている。そうだとすると、立場上、ガソリン価格は低ければ低いほど良いという訳にはいかない。足もと円相場はなお神経質な動きを続けている。

大幅な値上げは困るが、緩やかな上昇は「期待」したい。「期待」と「予測」がごちゃ混ぜになってしまうが、取りあえずガソリン価格はまだ上がると「予測」して、今週末に満タンにしておくことにしよう。

#### ▼ レギュラーガソリンの店頭現金小売価格



(資料出所) 資源エネルギー庁「石油製品価格調査」

（ 日本銀行前橋支店長  
    神山 一成 ）